

11月5日(金)防災学習

11月5日は「世界津波の日」として、津波防災の啓発活動が世界的に展開される日です。この日、和歌山県でも県民文化会館で濱口梧陵偉業顕彰シンポジウムが行われ、本校2年の一角諭宜さんと岩崎梨好さんが「受け継がれる梧陵の精神」と題する事例発表を行いました。また、本校では緊急地震速報訓練報を合図に、全クラス一斉にシェイクアウト訓練（地震から身を守る安全行動）を実施しました。その後、同シンポジウムの河田恵昭先生の講演「濱口梧陵を世界の英雄にする」を各教室にてオンラインで視聴しました。

創設者濱口梧陵の偉大さを改めて確認し、防災意識を高めた一日となりました。
当日の生徒の感想の一部を紹介します。

3-5 中さくら

私は今まで濱口梧陵については稲むらに火をつけて村人の道しるべをつくり、堤防を建設したということしか知らなかった。数年後の津波からその時の村人を守ったことを今回初めて知った。その当時の人だけでなく未来の人まで守ったのはすばらしい偉業だと思った。

「津波は自然現象、逃げないのは社会現象」という言葉が印象に残っている。たしかに私たちは、人の意見に流されて周りが逃げないなら自分も逃げないと判断することが多い。しかし、それでは私たちは南海トラフで大きな被害にあうことになる。また、30代の女性が最も死亡率が高いという調査結果も興味深い。母親は家のことを最も心配して、最後まで責任をもって戸締まりをしたり子供を守ったりする。この状況を変えるために災害準備をしっかりと行い、すぐに逃げられるようにするべきだろう。私たちは幸いにも、幼い頃から南海トラフのことを耳にしているので危機感がある。今後も梧陵の偉業を伝え続けてこの危機感を保っていくべきだと思う。

2-6 中村恵菜

濱口梧陵シンポジウム講演を視聴して、改めて濱口梧陵はすごく勇気のある人だと思いました。私は、小学校も中学校も湯浅町だったので、濱口梧陵の話は毎年のように聞いてきたし勉強もしてきました。小学校の教科書にも載っていたなと思っていたら、今日の講演で話してくれた河田さんが執筆者だと知りびっくりしました。これまで教科書で勉強したり、梧陵堤防を歩いたり、稲むらの火の館へ行ったりしました。今、高校生になってこのことがとても貴重だったと感じています。

「地震が起こる数秒前までは何も変わらないいつも通り」これはコロナでも同じだと言われていました。たしかに、今こんなことになっているなんて2年前までは想像もできませんでした。前例から学べることはたくさんあります。濱口梧陵は現在の津波対策に大きく関わっていて、濱口梧陵の行ったことの延長線上だと思います。私たちは濱口梧陵についてこれからも伝えていくべきだと思いました。

